



The Best partner for mobile Internet

C  B I R D[®]

第3期事業報告書

2000年4月1日から
2001年3月31日まで

01

“持ち運びできる電話”から、21世紀の暮らしや産業を革新する情報端末へと大きな進化を遂げつつある移動体通信。サイバードは、わが国を代表するモバイル・コンテンツ・プロバイダーとして、iモードをはじめインターネット対応端末の公式サイトを企画・開発・運用し、既に250万人(2001年4月末現在)を超えるユーザーの方々にご利用いただいています。そして、先進の技術・ノウハウを生かし、システムの開発・運用やモバイル・コマースなど、モバイル・インターネットの未来をひらく、さまざまな可能性にチャレンジしています。



インターネット対応モバイルが

楽しいゲームソフトやパズルゲーム、パーティーや宴会向けのゲームなどを、いつでも、どこでも、気軽に楽しんでいただけるよう、コンテンツの充実をはかっています。『ロボ ロボ』が代表的コンテンツです。

日本や海外の波情報をリアルタイムでお届けし、サーファーに大人気のコンテンツ『波伝説』やフィッシング情報『釣りキング』などが、楽しいアウトドアライフをサポートします。

おなじみのポパイやアルプスの少女ハイジから、アメリカの人気漫画や日本のアニメキャラクター、オリジナルキャラまで、人に見せたい多彩な画像を配信している『着キャラ!』、『Cool Screen』などがあります。



音楽



情報



コマース

コミュニケーション

新世紀の産業革命をリードする

既存のヒット曲では物足りない人、テクノ、ユーロビートなど、こだわりのある音楽ファンに向けて、自分らしさをアピールできる個性的な着信音を提供する『CoolSound』などがあります。

全国の詳細地図が見れる『ゼンリン携帯マップ』や海外情報、病院検索などの実用情報に加え、宝塚歌劇団のiモードサイト『i宝塚歌劇』、OLのためのコミュニケーションサイトなどバラエティに富んだ情報が入手できます。

ゲームソフトやCDが携帯電話から買える『TVパニックゲームストア』や、お気に入りのワインを購入できるサイト『ワインショップエノテカ』などがあります。

画像やメールのやりとり、投稿などを通して、普段は知り合えない人や、同じ趣味、興味を持つ人と友人になることができたり…。サイバードはコミュニケーションの未来を広げます。代表的なコンテンツには『@AJA』などがあります。

モバイルのベストパートナーをめざします

Q 移動体通信向けコンテンツ配信市場の現状と将来性について、お聞かせください。

A iモードに代表されるインターネット対応携帯電話等は急速に普及し、2001年3月末現在の国内契約者数は3,702万人(社団法人電気通信事業者協会調べ)、2005年には8,120万人に拡大すると予想されています(野村総研調べ)。

一方、当社が関わる、有料コンテンツの配信を含むモバイル・コマース(携帯電話経由の電子商取引)市場は、2000年が推定590億円、2005年には2兆4,500億円に達するものと見られています(経済産業省、電子商取引協議会、アクセンチュア調べ)。

移動体通信会社公式コンテンツの場合は、情報提供料をコンテンツ提供企業が一般ユーザーから直接集金するのではなく、移動体通信会社が集金代行することで、パソコンインターネットでは実現できなかったコンテンツ単位での小額課金が可能となります。安心感ある課金システムの採用で、利用者は今後も飛躍的に伸びていくことが予想されます。

今後、高速・大容量の新しい携帯端末が続々と登場し、動画などの配信も始まるとコンテンツ・ビジネスはさらに成長するでしょう。

ほり かずとも ロバート
堀 主知ロバート

代表取締役社長

1965年、米国ワシントンDC生まれ。関西学院大学卒業後、英国留学を経てインターネット関連事業を手がける。1998年サイバードを設立し、社長就任。35歳。

将来的には、携帯端末がテレビや家電製品のリモコンとして使えたり、電子マネーの支払い機能が組み込まれるなど、まさに生活必需品になって、膨大なマーケットを形成していくものと思われます。

Q その中で、御社のポジション、強みはどこにありますか。

A 当社は、iモードが開発される前からモバイル・インターネットの可能性に着目し、移動体通信会社にコンテンツ配信を提案してきたパイオニアです。その実績から、NTTドコモ、J-フォン、KDDI、DDIポケットという国内移動体通信会社に、さまざまなジャンルのコンテンツを「公式コンテンツ」として提供し、モバイル・インターネットの世界をリードしてまいりました。サイバードが提供するコンテンツの登録ユーザー数は約250万人

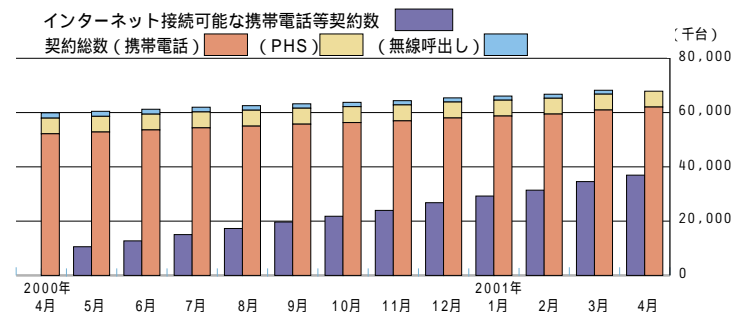


(2001年4月末現在)に達し、いまま月間20~25万人のペースで増加しています。

また、市場競争力をさらに強化するため、携帯電話用マイクロチップ開発でインテル社と提携したのをはじめ、電子商取引のサイト構築で日本IBMと、転職・アルバイト情報分野でリクルートと提携し、さらに、モバイル・コマースやコンテンツの分野でファミリーマートやH.I.S.、千趣会、ディズニーと提携するなど、国内外の大手企業との協力関係を次々に築いております。

当社の強みは、先駆者としての市場優位性に加え、常に新型携帯電話の開発に先行し、同業他社を圧倒する企画力、技術力にあります。そのことが、国内外の有力なコンテンツ所有者からパートナーとして選ばれる信頼性の高さにも結びついています。

最近1年間の契約数の月別推移
月末累計契約数



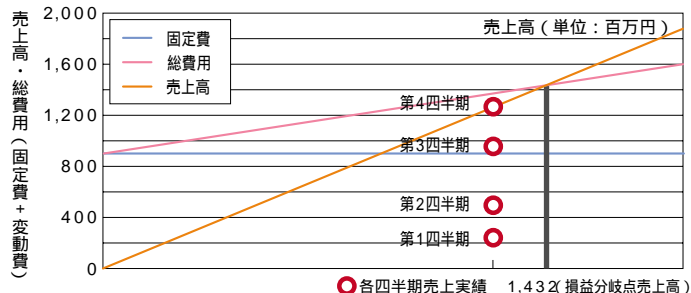
Q 当期の業績についての所感、また昨年12月に実施した店頭公開の効果をお聞かせください。

A 2001年3月期の連結売上高は29億円で、前期と比べ約7倍の実績になります。一方、最終損益は13億円の赤字決算となりましたが、これは、当社が上半期に事業基盤拡大のため先行投資を重点的に行ったことによります。下半期については、業務効率化による諸費用の圧縮が功を奏し、利益率が向上いたしました。四半期ごとの売上高を見ますと、損益分岐点に順調に近づいており、そのクリアも目前に迫っております。また、会員数の増加にともなうコンテンツ事業からの売上が順調に増加し、モバイル・コマースやソリューション事業も急拡大しております。2002年3月期は通期での黒字化をめざしてまいります。

昨年12月に店頭公開したことにより、社会的な信頼性向上や人事採用面などで早速効果が現れています。また、資金調達力の強化やグローバルな認知度アップにも寄与しています。

固定費/変動費と損益分岐点

第3四半期に固定費をカバーし、第4四半期には損益分岐点に近づく



Q 中長期的な事業計画をお聞かせください。

A これまではコンテンツ数の拡大、認知度アップ、優良企業との提携拡大など、コンテンツプロバイダー企業としての基盤を築くことに注力してまいりました。さらにモバイル・インターネット市場でグローバルな企業として世界にはばたくため、事業戦略として4つの柱を設けました。「コンテンツ事業」「モバイル・ビジネス・ソリューション事業」「海外事業」「技術ベース事業」—これらコアビジネスを確立してまいります。

中期的には、新事業への取り組みや業界リーダーとのアライアンスの強化、技術的優位性の確立を目標にしております。さらに、既存事業を拡大し、海外進出も積極的に行い、あらゆる産業と世界市場を対象にした「モバイル・インターネットのベストパートナー」をめざしてまいります。中期的な数値目標としては、売上高100億円を掲げておりますが、その中で利益の極大化をも追求していく方針です。

「4つの柱」

コンテンツ事業

既存のメディア / 情報提供元とのアライアンス
既存ユーザーをベースとしたマーケティングソリューション

モバイル・ビジネス・ソリューション事業

既存クライアントからの継続受注
収益性の高いパッケージ商品
価値提案のコンサルティング

海外事業

事業基盤の確立
モバイル・ビジネス・ソリューションを中心に展開

技術ベース事業

高負荷装置などのノウハウ利用
Brewなど新技術への継続対応
K・ラボラトリー
クライアントサイド / プラットフォームでのビジネス

「仕組みを作る会社」へ

提供コンテンツ一覧

CONTENTS

インフォメーション系コンテンツ



© Hearst Holdings, Inc.

コミュニケーション系コンテンツ



その他

主要取引先

PRINCIPAL CUSTOMERS

移動体通信会社 / 株式会社NTTドコモ、J-フォングループ（ジェイフォン東日本株式会社、ジェイフォン東海株式会社、ジェイフォン西日本株式会社）、KDDIグループ（株式会社ディーディーアイ、株式会社エーユー、DDIポケット株式会社、株式会社ツーカーセルラー東京、株式会社ツーカーセルラー東海、株式会社ツーカーホン関西）

その他 / 株式会社アトラス、インテル株式会社、ウォルト・ディズニー・インターナショナル・ジャパン株式会社、株式会社エイチ・アイ・エス、エノテカ株式会社、角川春樹事務所、(有)サーフジェンド、株式会社スターダストネット、株式会社世界文化社、株式会社千趣会、株式会社ゼンリン、株式会社つり人社、株式会社TBSラジオコミュニケーションズ、株式会社電通、日本アイ・ピー・エム株式会社、阪急電鉄株式会社、日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社、株式会社ファミマ・ドット・コム、株式会社ファミリーマート、株式会社扶桑社、株式会社明響社、株式会社リクルート

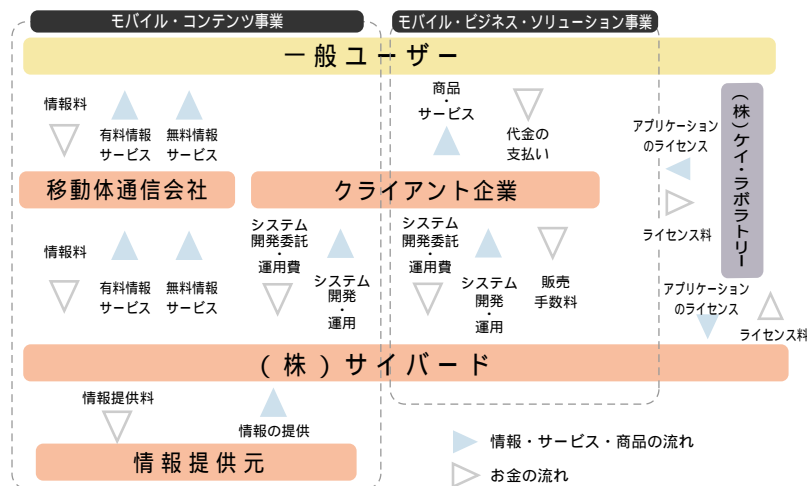
モバイルのベストパートナーをめざして

新しいビジネスフィールドの開拓

サイバードはコンテンツ提供だけでなく、事業会社のモバイル・コマース支援をはじめとした新しいビジネスチャンスにチャレンジしています。

モバイル・ビジネス・ソリューション事業

当社は、モバイル・インターネット・ビジネスの可能性を広げる、各種ソリューションサービスを提供しています。とくにモバイル・コマースの支援では、日本IBMと提携してモバイル・コマースに必要な決済、物流、ユーザー認証、商品管理、顧客管理の5つのモジュールで構成するソリューションモデルを構築し、販売しています。当社は主要移動体通信会社にコンテンツを提供している実績から、いずれの会社向けサービスも構築できるという強みがあります。このほかにも、当社はモバイルの特長を生かした新しい企業向けモバイル・ビジネス・ソリューションサービスの開発に取り組んでいます。



モバイル・コマース事業

当社は昨年2月、株式会社明響社と提携し、iモード上でゲームソフトを販売する「TVパニックゲームストア」を立ち上げたのを皮切りに、業界有力企業とのアライアンスによるモバイル・コマース事業を展開しています。システム構築のソリューションはもちろん、コンテンツ配信で培ったノウハウを生かしてユーザーニーズにマッチしたコンテンツの提案なども行い、利用者から支持されています。モバイル・コマース事業は、当社が少ない費用負担で、システム構築・運用のコストや事業者の売上の一部を受けとることができるなど、今後も当社の安定した収益源となります。

技術開発事業

携帯電話向けのクライアントサイド・アプリケーション及びソフトウェアプラットフォームに関連する事業です。2000年8月に設立された、当社子会社の株式会社ケイ・ラボラトリーは、携帯電話の端末側で動作するソフトウェアの研究、開発およびライセンスを行っています。アプリケーション事業として、今期は株式会社NTTドコモから発売されたiアプリ対応の503iシリーズに向け、次のようなJava™アプリケーションの供給を行いました。

サイバードおよびその業務提携先が運用するサイトに対しては、「トゥーン・タイム」向けの待ち受け時計、「ゼンリン携帯マップ」のベクトルデータ地図など。

サイバード以外では、株式会社NTTドコモ、ジャパン・ネット銀行株式会社、ギガ・ネットワークス株式会社などから受注しました。

また、携帯電話Java™向け技術として次のような開発とライセンスを行いました。

ベクトルデータ描画によるアニメーションエンジン「Kare-B」

簡易ブラウザおよびページ記述言語「HMML Architecture」

アニメーション・ブラウザおよびページ記述言語「FML Architecture」

Java™時計開発キット「KLOCK」

主なモバイル・ビジネス・ソリューション事業

主なモバイル・コマース事業

提携先	ファミリーマート	H.I.S. (エイチ・アイ・エス)	千趣会	明響社	エノテカ
名称	ファミマ i	H.I.S. 海外旅行ナビ	千趣会べるね	TVパニックゲームストア	ワインショップエノテカ
商品・サービス内容	CD、DVD、ゲーム、コンサートチケット、カタログ掲載商品など。iモードで注文、全国ファミリーマートで商品受け取り。	格安航空券・海外パッケージツアーなどの旅行商品を予約し、店頭で購入。	雑貨、衣料、インテリアなど。千趣会の通販カタログから簡単なコード入力で発注可能。	iモード上でゲームソフトを販売。入手しにくいソフトも購入できる。	iモードでワインの情報検索および注文ができる。ワインの知識を深めるコンテンツを提供。

JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。

モバイル・コンテンツ事業

当社は、当期中に、国内移動体通信会社向けに25のコンテンツを純増させ、2001年3月末現在で65の公式コンテンツを運用しています。2001年1月から新規コンテンツ数が増加していないのは、既存コンテンツのJava™化(6コンテンツ)やモジュール化(「マイ・サイバード」(ポータル))に注力したことによります。当期末現在の登録会員数も前期末現在の11万8千人から215万8千人増加し、227万6千人となりました。

2001年3月期までは、コンテンツ・ビジネスを中心とした基幹ビジネスの確立期でした。今後も、ビジネス環境の早い変化への対応をしつつ、投資リターンを重視しながらも、収益性の高いコンテンツを十分に選別・投入し、確実な成長をめざします。

今後は、既存コンテンツのJava™化を含めJava™アプリケーションの提供数を増やし、コンテンツ数も通期で約20コンテンツ増加する予定です。また、モジュール化、各コンテンツの複数移動体通信会社への展開など開発費の圧縮をはかっています。新規コンテンツの開発には、12ヶ月以内での投資回収、管理可能利益をベースとした2年間のROIが570%以上という厳しい開発基準を設けています。

モバイル・ビジネス・ソリューション事業

当社は、モバイル・コンテンツ事業の他、より市場サイズが大きく、長期的な収益拡大をもたらす可能性のあるモバイル・ビジネス・ソリューション事業にも注力しています。

通期では23件(前期比21件増)のプロジェクトを手掛け、当連結グループの全売上に占めるモバイル・ビジネス・ソリューション事業の売上構成比率が19.9%(前期比12.1%増)となりました。

当期に、5億7千7百万円の売上を計上(前期比5億4千5百万円増)するまでに成長したモバイル・ビジネス・ソリューション事業に、今後もより積極的に社内資源を投入していく所存です。本ビジネス分野では、社会インフラ性の高い産業分野との協調により、モバイル・インターネット・サービスの拡大をめざします。

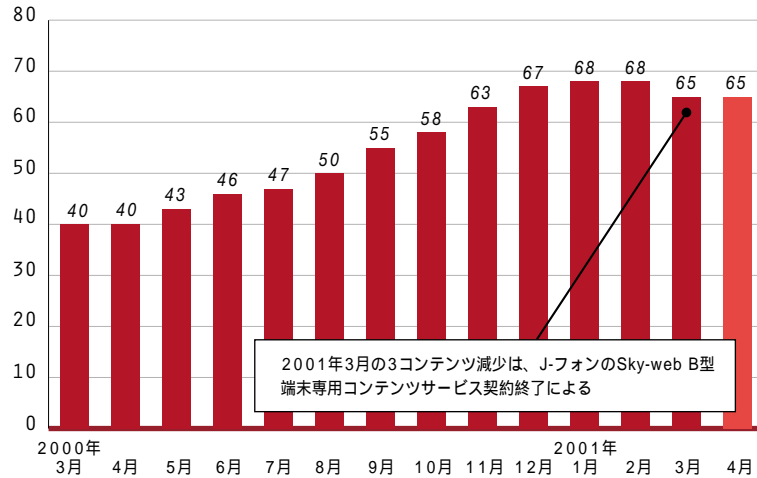
今後は受託開発だけでなく、そのノウハウを活かして他のクライアントに広く応用できるパッケージ商品の開発・販売も強化していきます。また、事業方針としては、短期での投資回収、クライアントとの開発投資リスクの共有など、より厳しい基準により新規プロジェクトを推進していきます。

技術開発事業

当社の唯一の連結子会社である株式会社ケイ・ラボラトリーは、2000年8月に設立され、第4四半期からサービスを開始したJava™対応型アプリケーション開発や携帯電話のプラットフォームの研究開発に注力しています。通期では11件の受注案件に携わり、売上は単体で7千8百万円でした。そのうち当社に対する売上は5千4百万円(売上構成比69.6%)となっています。

同社は、携帯電話上で作動する、便利なアプリケーションを、より簡単に開発できるように、携帯電話に特化したソフトウェアプラットフォームの研究開発およびライセンスを行っております。PC向けソフトウェアをダウンサイジングする手法と異なり、初めから携帯電話のみに特化するユーザーの視点に立った開発により、携帯電話のソフトウェアプラットフォームにおける業界標準をめざします。

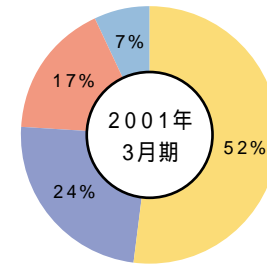
当社提供国内コンテンツ数の推移



移動体通信会社別売上比率

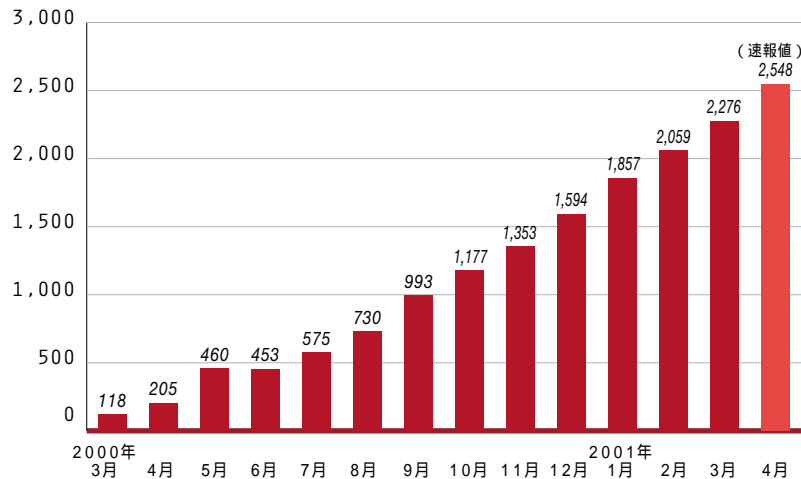
4 移動体通信会社に対し
コンテンツ/サービスを
提供しています。

- NTTドコモ
- J-フォン
- KDDI
- DDIポケット



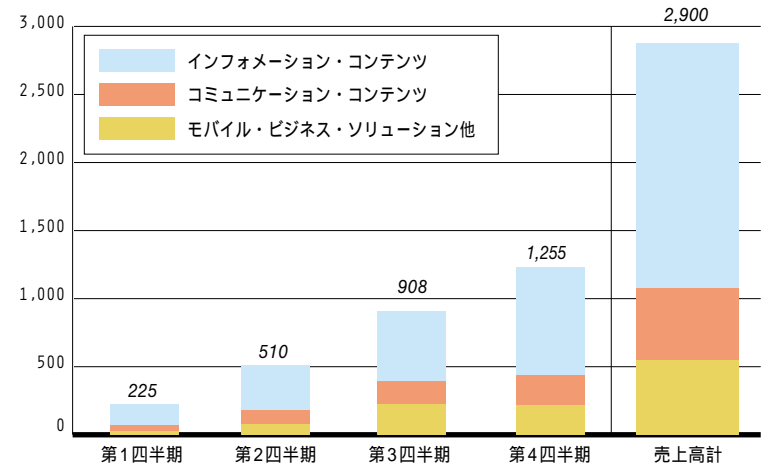
国内コンテンツ登録会員数の推移

単位：千人



売上高 (連結)

単位：百万円



サイバードQ&A

皆さまからのご質問にお答えします

Q そもそも、コンテンツとは何ですか。

A 情報通信分野の用語としては、パソコン通信やモバイル・インターネットで配信される情報の中身のことを指します。当社は、ゲーム、占い、音楽、アウトドア、旅行、地図、コマース、コミュニケーションなど、合計65（2001年4月30日現在）の国内移動体通信会社における公式コンテンツを提供しています。

Q サイバードがコンテンツやサービスを提供している通信事業者を教えてください。

A NTTドコモ、J-フォングループ、KDDIグループ（旧DDI、IDO、TU-KA、DDIポケット）です。つまり、当社はわが国の主要移動体通信会社と取引関係があり、このことがコンテンツ提供のみならず、モバイル・コマースやモバイル・ビジネス・ソリューション事業にも有利に働いています。

Q 同じインターネットでもパソコンと携帯電話の違いはどこにありますか。

A 一番の違いはその携帯性です。「いつでも」「どこでも」「誰でも」アクセスできるのが、携帯電話のインターネットです。携帯電話はパソコンに比べて小さいことから、その限られた操作環境の中でいかに使いやすく情報を提供できるかが重要となります。当社が提供するコンテンツで説明いたしますと、サーファーはパソコンなしに、「波伝説」で波の状況を移動中の車からでもチェックできます。変わりやすい海の天気も画面上の「天気予報」で確認でき、もし現地について波がなければ、すぐにいい波のある場所を探し、仲間に電話やメールで連絡できます。また「ゼンリン携帯マップ」では、道路情報やコンビニ・銀行などを検索できます。移動途中に、待ち合わせのファーストフード店の地図を他の車にいる仲間にメールで送信することも可能です。こうしたリアルタイム情報と電話連動機能を活用した利便性は携帯電話ならではのものです。将来的に携帯電話はあらゆる装置・機器の子機として、さまざまな進化を遂げて、あるときは「財布」「鍵」「身分証明のIDカード」として、これからの暮らしに不可欠なものとなるでしょう。



Q

サイバードは、他のコンテンツ事業者とどこが違うのですか。

A

創業時からモバイルに特化し、コンテンツ提供のみならず、さまざまな産業のサービスをモバイルに最適化する企画から技術、マーケティング、営業などの総合的なノウハウを備えている点です。そうした実績が「モバイル・インターネットのベストパートナー」としての地位を確かなものにし、技術力に関しても世界的に高い評価を獲得しています。

Q

海外市場への進出は、どのように考えていますか。

A

モバイル・インターネットは、日本発の国際標準となることが期待される有力なビジネス分野です。日本だけでなく、世界的にも拡大していますが、当社としては国内での実績と優位性を生かし、進出の条件に合致した国や地域から順次、海外各産業のリーディングカンパニーと共同でモバイル・ビジネス・ソリューションの提供を開始する計画です。既に、日本に次いでインターネット対応携帯電話が普及している韓国でCYBIRD KOREA Co.,Ltd.に出資し、今後の海外におけるサービス提供のパイロットケースとしてノウハウを蓄積しているところです。当社は、進出先の市場動向や参入形態の調査を十分に行い、事業リスクの軽減を



はかりながら事業展開していくことを基本としています。

Q

モバイル・インターネット市場の将来性について教えてください。

A

現在のモバイル・インターネット市場は、コンテンツの配信を中心としたBtoC(企業-消費者)が中心になっています。今後は、携帯電話を使ったネット通販など本格的なモバイルコマースや企業向けサービス、つまりBtoB(企業間)やBtoBtoC(企業-企業-消費者)市場の成長が見込まれています。今後、すべての携帯電話はインターネット対応になると考えます。また、利用者也世代を超えて広がり、その拡大した利用者をターゲットにあらゆる産業分野でビジネスのモバイル化が進んでいくでしょう。

連結財務諸表

連結貸借対照表

期別	当連結会計年度	前連結会計年度	増減率
(単位：千円)	2001年3月31日現在	2000年3月31日現在	(単位：%)
資産			
I 流動資産			
1. 現金及び預金	1,560,377	2,103,413	25.8
2. 売掛金	1,257,468	125,906	898.7
3. たな卸資産	61,893	13,220	368.2
4. その他	123,918	23,647	424.0
5. 貸倒引当金	22,245	3,217	591.5
流動資産合計	2,981,412	2,262,970	31.8
II 固定資産			
1. 有形固定資産	147,595	18,982	677.5
2. 無形固定資産			
(1) ソフトウェア	664,434	120,651	450.7
(2) ソフトウェア仮勘定	1,198	83,866	98.6
(3) その他	1,027	446	130.3
無形固定資産合計	666,660	204,964	225.3
3. 投資その他の資産			
(1) 投資有価証券	81,912	-	-
(2) 敷金	111,556	7,592	1,369.4
(3) その他	10,115	3,120	224.2
投資その他の資産合計	203,584	10,713	1,800.3
固定資産合計	1,017,840	234,660	333.8
資産合計	3,999,252	2,497,631	60.1

コンテンツ売上増加に
ともなう売掛金増加

社屋移転による内装
と什器などの増加

新規25コンテンツお
よび既存コンテンツ
のバージョンアップ
による増加

1. 記載金額は表示単位未満を切り捨てております。

2. 個別財務諸表については第3期定時株主総会招集ご通知の添付資料のとおりであります。

期別	当連結会計年度	前連結会計年度	増減率
(単位：千円)	2001年3月31日現在	2000年3月31日現在	(単位：%)
負債			
I 流動負債			
1. 買掛金	180,341	61,294	194.2
2. 短期借入金	-	10,620	-
3. 未払法人税等	2,432	46,511	94.8
4. 賞与引当金	29,610	7,850	277.2
5. 未払金	382,767	117,701	225.2
6. その他	18,618	6,019	209.3
流動負債合計	613,770	249,998	145.5
II 固定負債			
1. 長期割賦未払金	58,498	-	-
固定負債合計	58,498	-	-
負債合計	672,268	249,998	168.9
少数株主持分			
少数株主持分	4,219	44,104	90.4
資本			
I 資本金			
II 資本準備金	2,462,200	1,130,500	117.8
小計	4,867,700	2,400,500	102.8
III 欠損金			
資本合計	3,322,764	2,203,527	50.8
負債、少数株主持分及び資本合計	3,999,252	2,497,631	60.1

コンテンツ売上増加
にともなう情報提供
元への支払い

新オフィスの内装と
什器などの割賦購入

株式公開を契機とした
新株発行による増加

連結損益計算書

期別	当連結会計年度		前連結会計年度		増減率
	2000年4月1日から2001年3月31日まで		1999年4月1日から2000年3月31日まで		
(単位：千円)					(単位：%)
I 売上高	2,900,114		421,106		588.7
II 売上原価	2,055,464		214,405		858.7
売上総利益	844,650		206,701		308.6
III 販売費及び一般管理費					
1. 広告宣伝費	253,151		21,695		1,066.9
2. 貸倒引当金繰入額	22,113		3,170		597.6
3. 役員報酬	180,084		64,930		177.4
4. 給与手当	261,204		22,776		1,046.8
5. 福利厚生費	55,025		26,101		110.8
6. 賞与引当金繰入額	9,463		672		1,308.2
7. 旅費交通費	39,856		12,877		209.5
8. 研究開発費	539,844		73,798		631.5
9. 支払手数料	419,693		43,358		867.9
10. その他	284,187		69,314		509.6
営業損失	1,219,975		131,993		824.3
IV 営業外収益	1,716		37		4,433.7
V 営業外費用	161,727		15,130		968.9
経常損失	1,379,985		147,086		838.2
VI 特別利益	-		97,500		-
VII 特別損失	3,196		-		-
税金等調整前当期純損失	1,383,182		49,586		2,689.4
法人税、住民税及び事業税	2,492		46,521		-
法人税等調整額	3,455		3,455		86.2
少数株主利益	9,344		41,334		-
当期純損失	1,379,786		133,987		929.8

人件費
業容拡大により増加

コンテンツ売上増加
にともなう移動体通
信会社への代金回収
代行手数料の増加

株式公開にともなう
新株発行費
156百万円

連結剰余金計算書

期別	当連結会計年度		前連結会計年度	
	2000年4月1日から2001年3月31日まで		1999年4月1日から2000年3月31日まで	
I 欠損金期首残高	196,972		62,985	
II 欠損金減少高				
連結子会社合併による欠損金減少高	31,823		-	
III 当期純損失	1,379,786		133,987	
IV 欠損金期末残高	1,544,935		196,972	

連結キャッシュ・フロー計算書

期別	当連結会計年度	前連結会計年度	
(単位：千円)	2000年4月1日から2001年3月31日まで	1999年4月1日から2000年3月31日まで	
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前当期純損失	1,383,182	49,586	事業拡大にともなう 先行投資増加
2. 減価償却費	211,811	11,134	
3. 受取利息及び受取配当金	1,011	36	
4. 支払利息	5,387	275	
5. 新株発行費	156,339	14,170	コンテンツ売上増加 にともなう売上債権 の増加
6. 売上債権の増加額	1,131,561	104,735	
7. 仕入債務の増加額	116,174	48,283	
8. 未払金の増加額	269,737	110,976	
9. その他	90,987	100,076	
小計	1,847,292	69,595	
10. 利息及び配当金の受取額	1,011	36	
11. 利息の支払額	5,387	275	
12. 法人税等の支払額	46,722	270	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,898,391	70,104	
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 有形固定資産の取得による支出	80,742	21,701	
2. 無形固定資産の取得による支出	638,970	116,322	コンテンツの増加
3. その他	194,718	255	
投資活動によるキャッシュ・フロー	914,431	137,769	
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 社債の発行による収入	-	49,340	
2. 社債の償還による支出	-	50,000	
3. 株式の発行による収入	2,290,860	2,296,329	株式公開を契機とし た募集増資
4. その他	21,077	8,990	
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,269,782	2,286,680	
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0	-	
V 現金及び現金同等物の増加額・減少額()	543,036	2,078,806	
VI 現金及び現金同等物の期首残高	2,103,413	24,606	
VII 現金及び現金同等物の期末残高	1,560,377	2,103,413	

会社概要

COMPANY OUTLINE

株式の状況

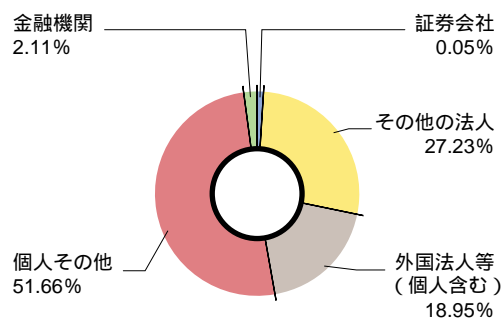
社名	株式会社サイバード																						
英文名	CYBIRD Co., Ltd.																						
設立	1998年9月29日																						
資本金	2,405,500,000円																						
所在地	〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-20 神谷町森ビル TEL: 03-3431-0111(代表)																						
社員数	129名																						
事業内容	インターネット対応携帯電話に向けたWEBサイトやシステムのコンサルティング、企画制作及びシステムの開発・運用・メンテナンスなど、トータルソリューションの提供																						
証券コード	4823 (JASDAQ)																						
役員 (2001年6月28日現在)	<table border="0"> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>堀 主知口バート</td> </tr> <tr> <td>取締役副社長</td> <td>真田 哲弥</td> </tr> <tr> <td>専務取締役</td> <td>岩井 陽介</td> </tr> <tr> <td>常務取締役</td> <td>中島 謙一郎</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>山下 伸一郎</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>吉川 友貞</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>稲荷 幹夫</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>立石 知雄(非常勤)</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>内海 淳</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>竹山 正久(非常勤)</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>清水 博(非常勤)</td> </tr> </table>	代表取締役社長	堀 主知口バート	取締役副社長	真田 哲弥	専務取締役	岩井 陽介	常務取締役	中島 謙一郎	取締役	山下 伸一郎	取締役	吉川 友貞	取締役	稲荷 幹夫	取締役	立石 知雄(非常勤)	監査役	内海 淳	監査役	竹山 正久(非常勤)	監査役	清水 博(非常勤)
代表取締役社長	堀 主知口バート																						
取締役副社長	真田 哲弥																						
専務取締役	岩井 陽介																						
常務取締役	中島 謙一郎																						
取締役	山下 伸一郎																						
取締役	吉川 友貞																						
取締役	稲荷 幹夫																						
取締役	立石 知雄(非常勤)																						
監査役	内海 淳																						
監査役	竹山 正久(非常勤)																						
監査役	清水 博(非常勤)																						
取引銀行	東京三菱銀行、富士銀行、三井住友銀行																						
加盟団体	モバイル・コンテンツ・フォーラム																						
連結子会社	株式会社ケイ・ラボラトリー																						
関連会社	CYBIRD KOREA Co., Ltd.																						

発行済株式の総数	15,340株																								
株主数	974名																								
主要株主	<table border="0"> <tr> <td>堀 主知口バート</td> <td>2,103株</td> <td>13.7%</td> </tr> <tr> <td>真田 哲弥</td> <td>1,056株</td> <td>6.8%</td> </tr> <tr> <td>岩井 陽介</td> <td>1,056株</td> <td>6.8%</td> </tr> <tr> <td>オムロン株式会社</td> <td>900株</td> <td>5.8%</td> </tr> <tr> <td>オムロン エンタープライズ株式会社</td> <td>890株</td> <td>5.8%</td> </tr> <tr> <td>立石 知雄</td> <td>705株</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td>Intel Pacific Inc.</td> <td>690株</td> <td>4.4%</td> </tr> <tr> <td>伊藤忠商事株式会社</td> <td>630株</td> <td>4.1%</td> </tr> </table>	堀 主知口バート	2,103株	13.7%	真田 哲弥	1,056株	6.8%	岩井 陽介	1,056株	6.8%	オムロン株式会社	900株	5.8%	オムロン エンタープライズ株式会社	890株	5.8%	立石 知雄	705株	4.5%	Intel Pacific Inc.	690株	4.4%	伊藤忠商事株式会社	630株	4.1%
堀 主知口バート	2,103株	13.7%																							
真田 哲弥	1,056株	6.8%																							
岩井 陽介	1,056株	6.8%																							
オムロン株式会社	900株	5.8%																							
オムロン エンタープライズ株式会社	890株	5.8%																							
立石 知雄	705株	4.5%																							
Intel Pacific Inc.	690株	4.4%																							
伊藤忠商事株式会社	630株	4.1%																							

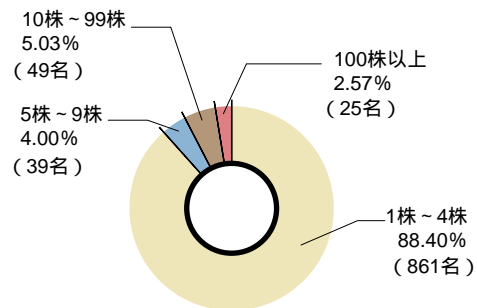
(2001年3月31日現在)

株式の分布情報

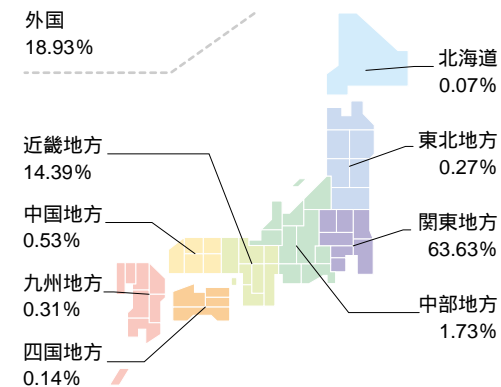
所有者別状況



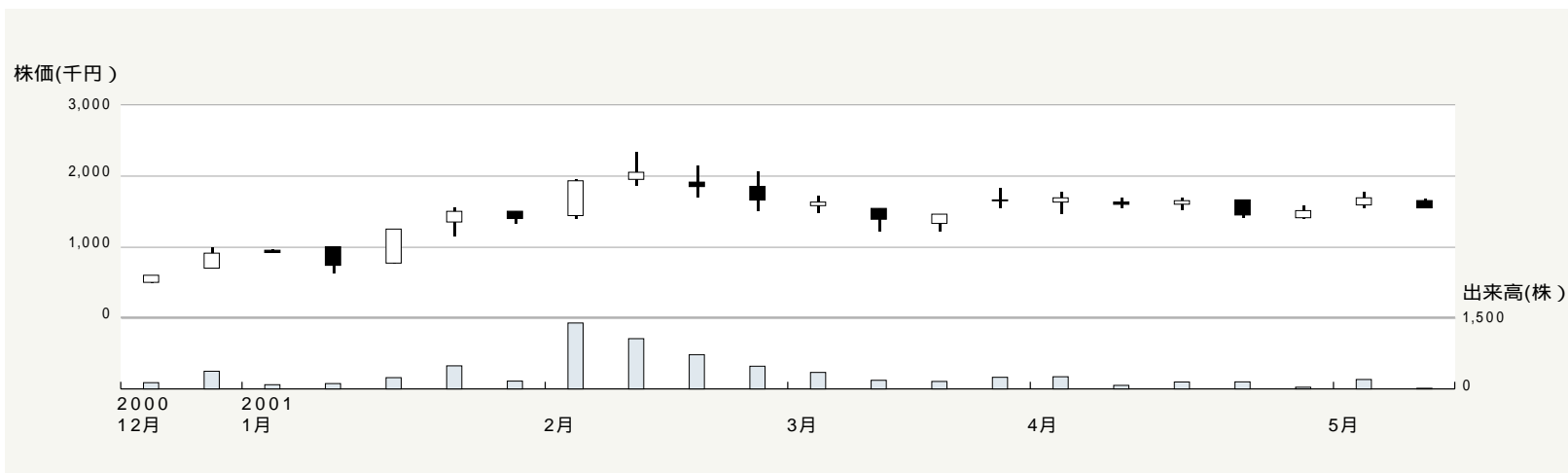
所有株数別状況



株式の地域別分布状況



株価チャート (週足で株価・出来高)



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
配当金受領	利益配当金 毎年3月31日
株主確定日	中間配当金 毎年9月30日
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 東洋信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 東洋信託銀行株式会社 証券代行部 電話 03-5683-5111(代表)
同取次所	東洋信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社本店及び各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

株式会社サイバード

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-20 神谷町森ビル
Tel : 03-3431-0111 (代表) Fax : 03-5408-1200

<http://www.cybird.co.jp/>

*CYBIRDは、株式会社サイバードの日本国における登録商標です。
*本誌に掲載されている商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。
Copyright © 2001 CYBIRD CO., LTD.